

## (公財)日本太鼓財団 令和6年能登半島地震 支援報告書(12)

8月8日、16時43分頃、日向灘を震源とするマグニチュード7.1(最大震度6弱)の大きな地震が発生した。この地震により、九州地方の広い範囲で震度4以上の揺れに見舞われ、津波警報が発令された。更に、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表され、テレビの前で体が固まった。九州にいる知人たちの無事を願いながら、能登半島も復旧していない中で、南海トラフ地震まで起きたら、日本はどうなるのだと不安に駆られた。

8月末からゆっくりと進んだ台風10号も暴風や竜巻被害だけではなく、日本列島各地で線状降水帯を発生させ、その爪痕を残した。また、9月15日には、被災地である珠洲市と輪島市で土砂災害警戒情報レベル4が発表された。

そしてこの報告書をまとめていた9月21日に、珠洲市、輪島市、能登町で最大警戒レベル5の大雨特別警報が発令された。22日までの豪雨災害により、半島部各地で河川が氾濫し、土砂崩れや倒木による町の孤立、家屋倒壊、断水や停電が引き起こされた。避難所へ行くにも、冠水で路面が見えなくなり、応急復旧道路は配管が剥き出しになった場所もあり、仮設住宅でも一部の地域で家屋浸水が起きている。

自然災害はどれだけ対策しても想定外のことが起りうる。防災には自助・共助・公助があり、その連携は非常に重要だ。そして、自助がなければ、住民同士の共助も成立しにくい。現代では、インターネットで「防災」と検索すると多くの情報が出てくる。「知識を得る」「行動に移す」ことは、自身や家族が生き抜くために絶対に必要となるだろう。だが、防災対策を行えば必ず安全、とは言い切れない。こんなに重複して災害が起きるとは誰が想像しただろう。数ヶ月後には冬が来て雪が降る。

\*

\*

\*

2024年8月14日(水)

弁天夢太鼓・山王太鼓(珠洲市蛸島町)

当財団による「令和6年能登半島地震寄付金 支援事業」により修理された太鼓が、蛸島町のイベントで演奏されると弁天夢太鼓代表の室谷美恵子さんから伺い、現地へと向かう。同町では、毎年8月14日に「太鼓と踊りの夕べ」という祭りを行っている。本来の会場である、りふれっしゅ村鉢ヶ崎内「わくわく夢ランド」は災害ボランティアの宿泊場所となり使用できないため、珠洲市営野球場で開催された。

開会式では、米谷賛三実行委員長、珠洲まつり特別委員会の刀祢秀一委員長(珠洲商工会議所会頭)が挨拶し、泉谷満寿裕珠洲市長が祝辞を述べた。リハーサル中に、泉谷市長と刀祢委員長とお話をする機会があり、「この辛い状況でも、住民達が立ち上がり、祭りを開催したいという強い気持、そしてそれを実現させたことに正直驚いた」「祭りは大事ですね、被災地に希望と元気が湧いてきます。日本太鼓財団、浅野太鼓楽器店さまから、珠洲の太鼓団体にご支援があったことは、代表者から伺っています。本当に有り難うございます」と話された。珠洲市の太鼓の被害調査状況もお伝えし、他にも太鼓団体があればお声がけいただくように、お願いをした。

球場内では、弁天夢太鼓が指導している珠洲市立蛸島小学校の1年生から6年生、児童22人がリハーサルに励んでいた。この中には、山王太鼓に所属している児童もいて、支援で修復された平太鼓と長胴太鼓が青空の中、響き渡っていた。



子ども達は、地震により市外に避難したことや、夏休みの時期も重なり、練習をする機会はほとんど無かった。このリハーサルを合わせて3回の練習で、震災後初めて舞台に立つことになったが、上級生が下級生に見本を見せながら1時間以上練習を行っていた。

夕暮れになり、いよいよ本番が始まる。蛸島町だけではなく、珠洲市内や輪島市の住民達も多く集まり、屋台も賑わいをみせた。演奏前の紹介アナウンスでは、当財団と浅野太鼓楽器店が紹介された。太鼓を愛する全国の仲間たちからの寄付金により、太鼓が無償修復されたことが告げられると、会場から温かな拍手が沸き起こった。

いよいよ子どもたちの順番となる。蛸島町に受け継がれてきた太鼓のリズムが野球場に鳴り響き、代わる代わる一生懸命に太鼓を打つ姿に、未来への希望を感じた。



蛸島小学校のOBも駆けつけ、笛で参加する





山王太鼓の演奏

この後、奈良県の太鼓団体 倭 YAMATO や輪島和太鼓虎之介の演奏もあり、地震の犠牲者追悼とともに、花火が打ち上げられた。会場入り口には、「ガンバロウ☆スズ」の文字が浮かび上がり、「祈 1.1」と並べられたキャンドルが優しく揺らんでいた。キャンドルは、避難所にいる住民達で作ったそうだ。今年のお盆は、倒壊した墓石の修復が間に合わず、ブルーシートが一面にかけられた場所でのお墓参りとなった方、道が通れずお参り自体ができない方もいた。



祭りは 20 時過ぎに終わり、暗闇の中、車を走らせる。隆起したマンホールを避けながら、応急復旧された道に車がバウンドする。静まりかえった町の中、倒壊した家屋や瓦礫がヘッドライトで照らし出される。先程の祭りの熱気とは対照的で、気持ちが塞ぐ。でも、会場で見た被災地の皆さんの表情は明るかった。一步一步、団結しながら前へ進もうとしている。

2024年8月29日(木)

龍神太鼓保存会(珠洲市上戸町)

7月に引き続き、同保存会の支援対象となった太鼓を、納品に行く。修理対象となった長胴太鼓や新調された長胴太鼓および四角台を、それぞれ一台ずつ納品する。当日、3人のメンバーがお越しになり、生まれ変わった太鼓を見て、感嘆とともに笑顔が溢れる。今回の震災で、修復不可能なほどに大きく破損してしまった太鼓は、先人達への想いと、この震災の語り部として、廃棄ではなく、同保存会で保管されることになった。



修理前 長胴太鼓



修理後 長胴太鼓



新調前 長胴太鼓(廃棄ではなく保管)



新調後 長胴太鼓と四角台



左側2台 今回納品された長胴太鼓と四角台  
右端 前回納品した支援対象の太鼓

メンバーの間谷透さんより、前回お届けした太鼓で演奏を行ってきたとご報告があり、写真をいただく。「支援で修復された太鼓は、本当に音の響きが良く、驚きました。力強かったですよ」と伺う。8月9日の夜、大きな被害を受けた見附島の近くで演奏を行い、翌日は、太鼓の指導を行っている珠洲市立上戸小学校で太鼓を打ち鳴らし、多くの地元住民たちが集まったそうだ。



龍神太鼓は、雨乞い太鼓が由来となっており、水の神様と喜怒哀楽それぞれの面をつけた5人が太鼓を打ち、一緒に笛も奏でられる。ハの字ではなく、一文字に近い状態までバチを開いて打つ珍しい小バイに合わせて、面の感情に合わせた動きや打ち方を順に魅せる。この日、たまたま「哀」の面を持ってきていた方が、演奏の一部分を披露してくださった。



支援報告書 10 で書いたとおり、龍神太鼓保存会所有の一番古い太鼓は、動かすとゴロゴロと音が鳴り、雷鳴を表現するために先代達が石のようなものを入れたのではないかと語り継がれてきた。新調を機に確認してみようという話になり、破れた革をめくりながら、中を覗く。石のようなものは見えない。そこで、太鼓をひっくり返すと、木片がでてきた。胴の内側に光をあてると、内部の木が剥がれ落ちているのが見える。雷鳴の音のからくりは、長年打ち鳴らしてきたことで、胴の内部が徐々に欠け落ちたせいのようなのだ。どれ程までに、この上戸町で打ち鳴らされてきたのだろう。表現するために何かを入れたのではなく、時間をかけて雷の音となったのだ。この太鼓には雨乞いの祈りが宿っている。



\*

\*

\*

2024年9月15日(日)

#### 町野祭り太鼓(輪島市町野町)

代表者の柳田尚利さんから連絡があり、輪島市立町野公民館で待ち合わせをする。輪島市町野町には、地元で根付いた祭り囃子があったが、指導者の高齢化により継承がうまくいかず、太鼓の音が消えつつあった。そんな中、辛うじて媒体に保存されていた音を復元し、太鼓の響きで再び祭りを盛り上げたい、という思いから同保存会が発足された。待ち合わせ場所である公民館で、毎週水曜日の19時から練習しており、小学生から大人まで15人が参加している。

同町は震災当初、家屋倒壊だけではなく、大規模な土砂崩れが至るところで起き、孤立集落となっていた。8ヶ月あまり経った今でも、切れた電線が垂れさがり、土砂崩れも多く、道路沿いに倒壊した家屋が並ぶ。輪島の中心部に比べると復旧は遅く感じる。柳田さんのご自宅も大きな被害を受け、現在も住める状態ではない。



同保存会の太鼓は常時、公民館に置いてあり、そこにある太鼓は無事であった。しかし、年末に太鼓台を作成するために、柳田さんのご自宅に長胴太鼓を1台持ち帰っていた。また、年末年始の演奏のため2台の平太鼓を、公民館から離れた建物に移動していた。今回の地震により、両方の建物が大きな被害を受け、家屋倒壊による雨ざらしや落下により、胴が割れ、革も破れてしまった。2ヶ月以上経ち、ようやく家に入れた時には、雨漏りにより室内にあったパソコンが凍っていたようだ。柳田さんのお宅に関しては、写真を提供していただき、太鼓を確認していく。ご自宅に持って帰った長胴太鼓は、雨漏りのため革がたわみ、落下物の衝撃によりひび割れが起き、太鼓を動かすとジャリジャリと音が聞こえる。この太鼓は新調対象とした。



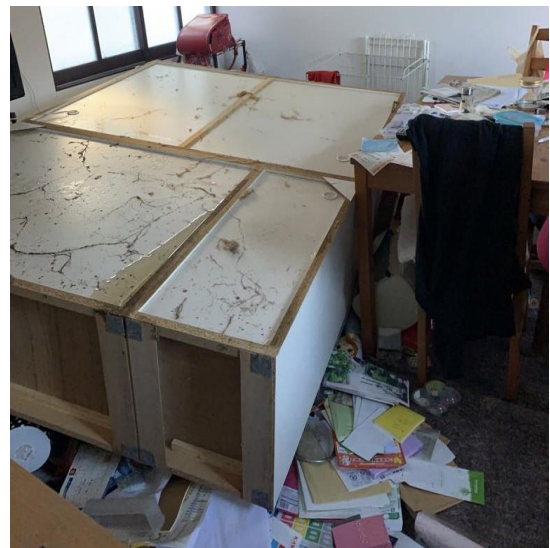
輪島市立町野公民館にある太鼓



柳田さんのご自宅に置いてあった長胴太鼓



ご自宅の様子(ご本人写真提供)



ご自宅の様子(ご本人写真提供)

次に、2台の平太鼓があった町野町大川へと車で移動する。途中、防災の携帯アラームが鳴り響く。土砂災害警戒情報が発表され、朝方より激しい雨となり、あっという間に冠水で路面が見えなくなる。地震による地割れや陥没でタイヤが大きく水しぶきをあげる。現場に到着すると、建物の一階が大きく潰れていた。ここで発見された太鼓は、革面が破れ、雨ざらしにより腐食が始まっていた。この先の、海沿いを通して名舟町に行く道は現在も通行止めのままだ。昨年5月の地震で被害を受け、修復作業していた最中に今回の地震が起きた。ショベルカーが落ちたままだという。



一階が大きく潰れた、太鼓を保管していた場所



8ヶ月あまり経ったが道は繋がらない



平太鼓①



平太鼓①



平太鼓②



平太鼓②

同保存会は、7月から練習を開始したが、太鼓が足りず、タイヤをテープで塞ぎ練習していると伺う。柳田さんは、「今後も多くの子どもたちに太鼓の良さを感じてもらいたい。地元の太鼓を残すためにも、舞台発表などの演奏活動を続けていきたいと思っています」と今回の支援を希望された。



## 珠洲八幡太鼓保存会(珠洲市正院町)

輪島市町野町を後にし、同保存会の事務局であり、奴振りの総取締役である瓶子明人さんに連絡をする。9月14日(土)・15日(日)にかけて行われる須受八幡宮の秋季例祭で、同保存会に納めた太鼓の奉納演奏が行われるからだ。正院町は2022年6月に震度6弱、2023年5月に震度6強、そして元日の発災と3年間で3度の地震に襲われた。そのため、昨年もキリコ巡行や奴振りは中止となり、2年ぶりの開催となった。今回は規模を縮小してでも行いたいと事前に伺ってはいたが、降り止まない雨のため、更にルート短縮し、奉納演奏が早まるかもしれないと連絡を受け、急いで車を走らせる。

神社に到着した頃には、雨が小康状態になっていた。倒壊していた社殿や能舞台が撤去されて更地が広がった境内に、奴振りの衣装であるドテラと化粧前掛けを着た町民が40人ほど集まっている。奴振りは、藩政期から伝わってきたとされる市無形民俗文化財である。艶やかな衣装の表裏にはたくさんの鈴がぶら下がり、手首紐にも鈴がつけられ、動く度にシャンシャン、コロコロと音が鳴る。2列になって町を練り歩き、木遣り風の唄と掛け声に合わせてゆったりと舞い、手に持った「シャング」と呼ばれる毛槍を、交互に投げ飛ばし、受け取る。

14時から、本殿の中では、粛々と祭事が執り行われていた。未だに本殿は電気が通っていない。辺りを見渡すと、赤子を抱いた女性たちを数人見かける。月齢を考えると、震災をお母さんのおなかの中で経験した赤ちゃんたちだろう。赤子の周りには、自然と人が集まる。大人たちの笑顔を見て、赤ちゃんも笑い返す。この日のために、戻ってきた住民達がたくさんいる。



この秋季例祭の開催にあたって、巡行経路だけではなく、キリコや奴振りのための人数が集まらないのではと問題になっていた。しかし、市外や避難所から地元住民たちが集まり、中学生の初参加や、年配者も復帰もあり、地区が一丸となって実施された。

15 時頃、奴振りが境内を出発し、倒壊した家々の道を練り歩いていく。再び雨が降り始め、私も傘をさしながら後ろをついていく。



30分ほど雨の中を舞い、一旦海の近くで休憩する。その時、誰からともなく、「もうここまで来たら、雨の中でも、俺たちの町を回れるだけ回ろう。」と声があがる。動いているとはいえ、体は冷え切っているだろう。それでも、男たちの顔は明るい。

雨は一段と激しくなり、仮設住宅に着いた頃には、髪から雫が滴り落ち、衣装のドテラも体にまとわりつく。カメラを構えた私の肩も濡れ、靴の中もぐちゃぐちゃと音をたてる。そんな中、「奴振りがきてくれた！」と仮設住宅から次々と住民が外へと出てくる。「ようやくここに帰ってこれたよ、ようやくだよ。ただいま、だね」中高生ぐらいだろうか、ドテラの衣装を着た若者が、祖母とおぼしき人に話しかけている。

この後も、雨樋から滝のように水が溢れるほどの天候の中、倒壊した故郷を2時間半あまりかけて練り歩き、舞い続けた。ドテラの艶やかな色が被災地に色を添え、男達の唄は仏教の声明のように聞こえる。沿道から、「頑張れー」と住民達の声が飛び続けた。



キリコも集まった境内に戻り、いよいよ奉納演奏が始まる。濡れた体を温める間もなく、珠洲八幡太鼓保存会のメンバーは、演奏の準備を始める。待っている間、その場に同席された正院町羽黒神社の高山哲典宮司から珠洲八幡太鼓にあわせて、珠洲の太鼓についてお話を伺う。同保存会に伝わる面は、鬼ではなく、雷神を表しているそうだ。珠洲には雨乞いに通じる太鼓が多く残っており、江戸四大飢饉の天保の飢饉の時に生まれた太鼓もあるという。また、そのリズムは一般的な小バイより更に小刻みに速く打つとお聞きする。

奉納演奏前に、50年以上にわたって珠洲八幡太鼓保存会で活躍されている小松次作さんが、今回の太鼓の支援事業についてご紹介くださり、生まれ変わった太鼓に町民のみなさんもカメラを向けていた。美しい笛の音から始まり、珠洲八幡太鼓保存会の太鼓演奏が始まる。力強い芯のある音に圧倒される。演奏が終わり、小松さんが「いい音ですよ、この太鼓、本当に有り難う」と話す。

能登半島にとって、祭りはインフラの一つだと話してくれた地元の記者がいる。現地の太鼓演奏に触れると、この支援事業の大切さを改めて実感する。



\*

\*

\*

9月21日から2日間にかけて降り続いた雨は、珠洲市、輪島市に甚大な被害をもたらしている。8月31日に自衛隊の災害派遣活動が終了し、被災地では稲穂が垂れ、運動会や祭りでこどもたちの元気な声も聞こえていた。その矢先に、この大水害である。

今、これを書きながらも太鼓関係者すべての詳細な情報はつかめていない。道が再び寸断され、電波も届かないエリアもある。ニュースや被災地の方々が発信してくれる現地の映像や電話連絡でその酷さに絶句する。今回の報告書での訪問先である輪島市町野町は、土石流で覆われた。太鼓関係者には人命救助や行方不明者捜索に携わる方々も多くいらっしゃる。人命救助には72時間の壁がある。電波も繋がらない、もしくは繋がりにくい中、家族との連絡や人命救助が優先である。情報収集は、被災地からの情報発信を待ち、こちらからの連絡はできるだけ耐える。道がつか

がり次第、現地に赴く予定である。現地の状況は支援報告書 13 で報告したい。

(公財)日本太鼓財団 寄附金支援事業計算表(8~9 月分)

団体名		金額
龍神太鼓保存会	新調 1 台・修理 2 台	1,465,200

合計 1,465,200

(2024 年 9 月 23 日)

\*

\*

\*

温かいご支援をありがとうございます。

現時点で頂いた寄付金のおよそ 2/3 を支援に充当いたしました。

本文にもありますとおり、9月21日から22日にかけて能登半島を中心に豪雨による災害が発生しました。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さま、ならびにそのご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

元日の能登半島地震で大きな被害を受けた輪島市や珠洲市、能登町などにおいて、復旧に向けた取り組みが続く中での今回の水害が発生したことには、言葉もございません。

今回の豪雨災害による被害は、能登半島地震からの復旧途中である地域に主に生じたことを鑑み、広義での能登半島地震災害の被害とみなし、当財団にお寄せいただいた寄付金による支援の対象といたしました。

被災地の皆様が一日も早く平穏な日常を取り戻されることを心より願っております。

日本太鼓財団本部では、これからも透明性のある支援を長期的に行ってまいります。

## 収支計算書

(単位:円)

(9/12 現在)

収入		金額	備考
1/5	全九州太鼓連合	1,000,000	
1/6	関八州太鼓連合	100,000	
1/9	東北太鼓連合	300,000	
1/18	浅野太鼓楽器店	1,000,000	
1/27	河合 光夫	10,000	シニアコンクール出場者
1/29	福井県太鼓連盟	30,000	
1/29	松本 弘昭	35,000	シニアコンクール出場者
2/1	東京都支部	100,000	
2/2	櫛引 秀明	50,000	シニアコンクール出場者
2/2	浅野 義幸	100,000	浅野太鼓楽器店 17 代当主
2/6	岡山県支部	110,000	
2/7	宮城県太鼓連絡協議会	150,000	
2/8	北海道道東支部	30,000	
2/9	茨城県支部	95,000	
2/13	千葉県支部	100,000	
2/13	岐阜県太鼓連盟	100,000	
2/13	岐阜県太鼓連盟獅子の会	50,000	国文祭ゲスト団体
2/13	全九州太鼓連合	2,805,701	
2/14	神奈川県支部	50,000	
2/16	佐々城 清	1,000,000	常務理事
2/16	高野 右吉	10,000	評議員、前副会長
2/16	宮城県太鼓連絡協議会	20,000	
2/16	滋賀県支部	50,000	
2/18	兵庫県支部	200,000	
2/26	日本太鼓財団事務局	143,000	
2/29	静岡県支部	100,000	
3/1	奈良県支部	162,000	
3/4	台湾太鼓協会	500,000	
3/7	北海道道北支部	132,628	
3/11	宮本卯之助商店	1,000,000	
3/14	栃木県支部	106,984	
3/15	群馬県支部	98,000	
3/18	和歌山県支部	130,000	
3/18	北海道道央支部	25,000	
3/19	長野県支部	540,537	
3/21	西岡 知則	30,000	シニアコンクール出場者

3/21	愛知県支部	257,632	
3/26	NPO 法人てほへ	150,000	志多らグループ会社
3/27	(有)志多ら	350,000	
3/27	ブラジル太鼓協会	440,000	
3/28	西川恵美子	50,000	評議員
3/28	北海道道南支部	150,000	
3/29	NPO 東京都太鼓連合	100,000	
3/29	日本太鼓財団東京都支部	500,000	
3/29	日本太鼓財団三重県支部	10,000	
3/29	日本太鼓財団島根県支部	100,000	
4/19	鶴岡太鼓フェスティバル	50,000	
4/25	岐阜県太鼓連盟	28,000	
4/30	逢鷲太鼓連 久野壯	50,000	
4/30	逢鷲太鼓連	92,000	
5/13	広尾陣屋太鼓保存会	10,000	
6/27	西岡 知則	30,000	シニアコンクール出場者
7/16	日比谷音楽祭	609,000	

計 13,440,482

支出		金額	備考欄
1/11	輪島支援物資	121,741	
1/19	穴水/能登町/志賀町	130,080	
1/27	志賀町/輪島	18,415	
2/8	名舟町	54,780	
2/11	輪島	28,534	
1~2月	各チーム交通費	67,714	
4/1	バチ	20,185	
4/3	横断幕	38,500	
3月	各チーム交通費	105,152	
4月	各チーム交通費	14,973	
5月	各チーム交通費	4,637	
6/28	太鼓修繕	344,000	須須守護神太鼓保存会
7/11	太鼓支援活動の助成金	3,800,000	日本太鼓財団石川県支部
8/1	太鼓修繕	2,588,000	山王太鼓、弁天夢太鼓、珠洲八幡太鼓
9/12	太鼓修繕	1,465,200	龍神太鼓保存会
7月	各チーム交通費	4,637	

計 8,806,548

収支差額		4,633,934	
------	--	-----------	--